

# 2020年度 学校自己点検・評価

## 日本芸術専門学校

### 目次

I. 教育理念・目的・人材育成像	1
II. 学校運営	1・2
III. 教育活動	2～5
IV. 学修成果	5・6
V. 生徒・学生支援	6～8
VI. 教育環境	8～10
VII. 生徒募集	10・11
VIII. 財務	11
IX. 法令等の遵守	11
X. 社会貢献・地域貢献	12
XI. 国際交流	13・14

<b>I. 教育理念・目的・人材育成像</b>	
1-1学校の教育理念・目標の設定	3つの教育理念(感動の教育、品格の教育、変革の教育)と2つのミッション(Precious Treasure教育、100%)を掲げている。
1-2時代、社会、学習者のニーズへの適合	プロフェッショナルになるための学びと、本物のエンターテインメントを結び付け、基礎から高度な技術にいたるまで、幅広いスキルを身につける独自の教育を行うことで、目まぐるしく変化する学園内外の環境に柔軟に対応し、様々なニーズに応えている。
1-3定期的な点検、見直しの実施(時期・方法・組織)	教育理念や目標についての見直しは、必要な際に適宜行うこととしている。方法は職員会議や校長会での議論。
1-4教育理念・目標の教職員・生徒・学生等への浸透方法、浸透度	学校のホームページにも教育理念や目標の内容を掲載し、認知度を高めている。 具体的な浸透度について、入学式等で説明、教職員の職員証裏に教育理念等を記載し常に携帯している。その他の方法については今後の課題。

<b>II. 学校運営</b>	
2-1役員の選定の基準の適正さ	役員就任時等において、理事会、評議員会による包括的承認を必ずとり、競業や利益相反についても十分留意することで、選定基準の適正さを保持している。
2-2理事会、評議員会の開催状況	2020年度は2回(2021年2月4日時点)理事会と評議員会を開催した。毎年行う予算や決算承認に加え、役員の任期満了年度であったため、理事、監事、評議員について適正な基準のもと選任を行った。
2-3寄附行為の定期的な点検と見直し	私学法の改正に伴い、昨年度大幅な見直しを行った。 今後も定期的に見直しをしていく必要がある。
2-4事務組織の明確化	組織図が、事務組織を兼ねている。
2-5学校運営会議、教育会議などの定期開催	教務部と企画営業部のみならず大森校の教職員全員による、月1回の職員会議を行い、学内行事の進行状況や学生の成績管理など、主に在校生に関する問題点の改善等に取り組んでいる。 また昨年度行っていた校長会に代わり、今年度から連絡会と経営会議の場を設けた。 連絡会では各校の管理職等にも参加してもらい、校舎の情報交換や広報についての情報共有を行うことで各校舎間の連携を高めている。また、経営会議には理事長、校長、事務局が参加し、学園全体の情報を共有し、迅速かつ適正な方針決定に注力している。
2-6各会議の内容と適正さ	各会議において、必ず議事録をとり重要な記録として保存している。 今年度から実際の発言などを議事録に詳細に盛り込むことで、より適正な会議を行っている。

2-7諸規程の制定	今年度は該当していない。
2-8諸規程の整備及び職業安定所への届出	顧問の社労士に適宜相談し、諸規程の整備をしている。制定/改訂した際は、その都度各職業安定所へ届出を行っている。
2-9諸規程の定期的な見直し	随時規程の見直しを行うことで、多岐にわたる学内業務の効率化に努める。また今年度、新たに各校舎校務分掌を作成し、教職員の役割を明確なものとした。校務分掌についても随時更新していく。
2-10学則等の定期的な見直し	議論を重ねた結果、2022年度から学科変更を行うことを決定した。今後も定期的な見直しや検討を行う予定。
2-11学生及び文書、備品等を守るための防犯対策の整備	昨年度から備品の保管方法を変更し、今年度も運用中。今後も適宜防犯対策の整備を行う必要がある。
2-12各教職員の防犯に対する認識の徹底	各教職員の防犯に対する認識として、たとえば朝と帰りの見回りの際にチェック項目を作成し、校舎内の点検を毎日行っている。今年度玄関外にあるポールのチェーンを新しくかけ直し、防犯対策を行った。
2-13学校安全保健計画、消防計画の作成	地震、火災等の際の緊急対応マニュアル、行動フローチャートの改定を行った。今年度、地震が度々起きているため、今後、教職員間で熟知し、緊急時にフローチャート通りに対応できるよう、職員のみでの防災訓練を行っていく必要がある。それに加え今年度は、感染拡大防止及び感染時対応マニュアルを作成した。
2-14個人情報保護法の遵守	教職員について、入職時と退職時に個人情報保護を遵守する旨の同意書にサインをもらっている。また教職員採用時、入試の際等、個人情報遵守についても内部でルールを作り行っている。今後も遵守の徹底に努めたい。
2-15セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成	各種ハラスメントやコンプライアンスについて、顧問弁護士や社会保険労務士などによる勉強会を適宜行っている。また就業規則にハラスメント防止に関する規程を明記している。今後マニュアルなども整備し、職場環境のさらなる改善に努める。
2-16相談窓口の設置と適切な対応	教職員の職場環境に関する相談、意見を述べる場として、学内の相談窓口のみならず、社会保険労務士との相談窓口を設けることで、相談しやすい環境を作っている。ここでの個人情報守られ、適宜必要な対応が適切に行われている。

<b>Ⅲ. 教育活動</b>	
3-1教育理念、目標の反映	3つの教育理念(感動の教育、品格の教育、変革の教育)に沿ったカリキュラム編成を実施している。

3-2カリキュラムの構成 (教養科目と専門科目、座学と実習など)	主に、実績のある担当講師による専門科目(演習授業)となっている。また、教養科目として外国語授業、その他、資格の取得が可能な授業を開講した。
3-3カリキュラムに対する学生・卒業生の評価	学生、エンターテインメント業界のニーズに合わせたカリキュラムを作成し、その点において高評価を受けた。今年度においては、年々増えつつあるミュージカルの学生が、より一人ひとりに指導がいくように、必修授業を3クラスのレベル分けて開講するなど、改善を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ミュージカルヴォーカルや舞台演技、発声・滑舌の授業を、2クラスに分けるなど、急遽対策を行った。
3-4カリキュラムの定期的な点検及び見直し	学生回答のカリキュラムアンケートを基に、学内の教職員で話し合い、授業科目・担当講師の検討を行った。
3-5実習システムの現況と今後の見直し	業界で活躍する企業、業界団体によるカリキュラムを取り入れているが、インターンシップ等の実習システムの連携にまだ乏しいのが今後の課題である。
3-6シラバスの作成・学生への提示状況	各授業の担当講師にニーズを伝え、シラバスを作成し、授業計画を立てた。学生へはガイダンス時からGoogle Classroomを登録してもらい、シラバスをデータで配布、またホームページにも掲載を行った。また、事前撮影した全授業のプレゼンテーション動画をClassroom内に掲載し、オンラインでいつでも授業内容を見られる環境を整えた。
3-7教育方法の工夫・研究の取り組み	一人ひとり、希望進路に合わせたアウトプットの場を設け、関係業界企業と連携した実践的な授業を行った。
3-8生徒・学生の授業評価とその反映	GPAを導入し、学内の成績評価としている。 GPAの評価方法は以下である。 各授業全出席で100%として、出席率70%以上で成績評価の対象となる。 評価点は、各授業科目の試験(実技または筆記)及び学生の学修意欲を見て100点満点を基準として、40点以上で単位修得としている。また、その評価点により100～85点を評価5、84～70点を評価4、69～55点を評価3、54～40点を評価2、39～0点を評価1として成績が通知される。なお、成績が1の場合は、単位取得不可となる。 GPAは、評価5を4点、評価4を3点、評価3を2点、評価2を1点、評価1を0点として換算し、(評価5の単位数×4点+評価4の単位数×3点+評価3の単位数×2点+評価2の単位数×1点)の合計を各学生の履修授業科目の合計単位数で除した数を求めることによって算出する。 またその結果は、卒業時の学業優秀者の表彰候補者選出などに活用している。
3-9卒業生・企業等の評価と活用	学内公開オーディションで、業界関係企業のべ約180社による学生評価を行い、その評価から、学生に足りないスキル等を次年度カリキュラム案に活用した。また、学生は自身への評価を知ることで、今後のスキルアップに繋げている。 今年度においては、事前に評価資料を各企業に郵送し、LIVEでオンライン配信も併用することで、コロナ禍において業界として厳しい状況が続く中でも、昨年度より参加企業数を前年度比80社増という結果となった。
3-10成績不良者への対応	学科担当制度を設けており、出席率の低い学生に対しては、担当教員から学生本人に警告を行っている。また、前期末と年度末に履修授業の出席状況を学生に配布し、欠席数が特に多い学生については、保護者に連絡し、三者面談を行っている。昨年度から保護者との連携を重視

	した体制づくりを行い、今年度は1人の未卒業者が出る見込みと、昨年度の8人から確実に人数を抑えた結果となった。
3-11学則・細則・内規に準拠した評価	「Guidance Book」に進級・卒業要件、各学科の必修科目等を記載し、ガイダンス時に学生に事前配布、ホームページにも掲載した。更に、オンライン配信で教職員による説明を行い、動画でも確認できるようになっている。また、GPAの算出により成績評価を行い、ガイダンス時に配布する「シラバス」にて成績評価方法を公表した。
3-12各成績判定者の審査基準、意思の統一	教職員による成績評価会議を数回実施し、審査基準等、意思の統一を行った。
3-13評価の客観性・妥当性・信頼性・公平性	上記の通り、教職員で客観性・公平性を意識し会議を行い評価の確認を行った。
3-14年度別合格率の推移、問題点の把握と対策	本校はエンターテインメント業界を目指す学生が通う学校のため、資格取得が目的ではなく、自身の体のケアのためのヨガインストラクターと整体師の授業を開講している。その中でも資格を取得する学生は、全学生のうち1割程度となっている。
3-15不合格者への対応	上記の通り、資格取得を目的としていないため、対応等は行っていない。
3-16専任教員と非常勤講師との数的・男女のバランス	専任教員は5名、業務委託契約を行っている講師は72名。男女バランスは7:6。(2021年1月末時点)専任教員は昨年度より1名増えている。
3-17教員の平均年齢とバランス	教員の平均年齢は32歳。女性教員のみとなっている。(2021年1月末時点)
3-18 1人当たりの担当授業時間数の点検	授業は全て業務委託契約講師が行っており、専攻分野がそれぞれ違うため、1人1授業が基本となっているが、カリキュラム会議や授業アンケートによって、必要に応じて複数を受け持っている。
3-19担当業務の内容と全体のバランス	専任教員の業務は、学生の進路相談や、カリキュラム作成、学校行事の運営、講師料・授業料及び奨学金等の対応と、多岐にわたっており、1人1人の業務量のバランスを考え、分担していくことが今後の課題である。
3-20定期的な人事考査の実施	定期的に管理職との面談を行い、目標の設定、達成度を報告した。
3-21教員の教育能力開発への取組状況	今年度においては外部の研修には参加ができない状況であったが、レコーディングスタジオに新しい機材を導入したため、教員が扱えるよう、スタジオ機材の研修を行った。また、全ての教員がAdobeのCreative Cloudを使用できる環境を整えており、動画編集用のiMacを導入した。今後は、危機管理としても、教員が最新の機材や舞台機構の知識を正しく身につけ、常に対応できるよう備えていく必要があるため、次年度も学内研修を行っていく。
3-22教員1人あたりの学生数の割合	専任教員1人あたり全学生95名のうち20%を見ている。(2020年5月1日時点)

3-23職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス	職員は法人本部の職員を入れて5名、平均年齢は43歳。(2021年1月末時点)男女バランスは4:1。
3-24担当業務の内容と全体のバランス	担当業務は教務事務から企画営業、広報活動まで多岐に渡る。現在、教員を兼任している職員もいる。人員配置については、定期的に検討を行っている。
3-25定期的な人事考査の実施	教員同様、定期的に管理職との面談を行い、目標の設定、達成度を報告した。
3-26各職員の意味疎通(報告・連絡・相談)	月に2度程、高等課程の教員も含めた学園全体での連絡会を行い、報告・連絡・相談を行っている。また、職員室内で常に共有することを意識し、業務にあたっている。

<b>IV. 学修成果</b>	
4-1就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か	<p>○就職支援 学内での外部向け公開オーディション(オンライン配信併用)、企業面談の開催、学内企業説明会の開催、株式会社リクルートによるマナー講座・面接模試、担当教員による個人面談等を行った。</p> <p>○資格取得 整体師、ヨガインストラクターの資格取得ができる授業科目を開講した。ヨガインストラクターの授業については、学生のメンタルケア及び心と体のバランス調整にも繋がっていると学生からの好評が高かった。</p> <p>○中退予防の取組 担当教員との個人面談を行い、修学上または進路の不安事項について相談を受け付けた。その他にも希望があり次第、都度面談、保護者との三者面談等を行った。また、不登校になった学生の保護者に担当教員から連絡し、保護者との連携を心がけた。 しかしながら、今年度においては特に心のケアが必要な学生が多く、教員のみでの対応では力不足に感じた。そのため、今年度2021年2月中旬より臨床心理士の先生に不定期で週に1度程来ていただき、誰でも気軽にカウンセリングを受けられるような体制を作り、学生に周知した。</p>

4-2動向分析	<p>○就職率(プロダクション等の企業への所属含む) 2019年度においては、卒業生30名中、21名がプロダクション等へ所属し、70%の就職率だった。その他、8名程がフリーで活動している。なお、大学院への進学が1名いる。今年度においては、11月に学内で外部向けオーディション(オンライン配信併用)が行われ、1月現在、各プロダクション・劇団と学生が面接を行っており、2月末に所属先が決まる見込みだ。</p> <p>○資格取得率 本校はエンターテインメント業界を目指す学生が通う学校のため、資格取得が目的ではなく、自身の体のケアのためのヨガインストラクターと整体師の授業を開講している。その中でも資格を取得する学生は、全学生のうち1割程度となっている。</p> <p>○中退率 11.5%(1年生・・・8名/2年生・・・3名)2021年1月末時点 前年度より2%増加。 主な退学理由としては、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、心身疾患や、進路の変更、経済理由などが多かった。</p>
4-3中途退学への対応	<p>学生が退学の意志を申し出た際に、必ず担当教員と学生、保護者で三者面談を行い、保護者の同意、学生の意志を確認した。その後、学校長へ報告し、すみやかに退学手続き対応を行った。また、退学の原因を追究し、カリキュラムや講師、教育環境の見直しを随時行った。</p>
4-4卒業生の活躍の状況	<p>○プロダクション・劇団所属、マネージメント業で活躍している卒業生の主な進路先 ピンナップスアーティスト、山王プロダクション、ミズキ事務所、アミティープロモーション、アーティストクルー、アソビシステム、ジールグループ、ゴーゴーミュージック、ZERO CREATION、Envision Nextage、東宝芸能、円・演劇研究所、劇団め組、麗タレントプロモーション、フレイヴエンターテインメント、松竹エンタテインメント、松竹芸能、元氣プロジェクト</p> <p>その他、メディア・ステージスタッフ業で活躍している卒業生がいる。</p>

<b>V. 生徒・学生支援</b>	
5-1担任、担当者による進路・就職相談の実施	定期的に進路希望調査を行い、担当教員との面談を実施した。
5-2卒業後の進路調査の徹底	卒業時に、卒業生全員から必ず最終進路先報告書を回収し、把握している。
5-3新たな求人の開拓のための活動	学内での外部向け公開オーディションや、企業説明会に向け、新たな企業参加数を増やすための連絡活動、また今年度から業界での経験・ネットワークのある職員が新たに増え、広報活動を積極的に行うことで、昨年度のオーディション参加企業数の倍100社が約180社に増えた。
5-4カウンセラーによる学生相談室の設置並びに相談システム	今年度において、より需要が高まっているのを感じ、2月中旬よりカウンセラーによる学生相談室の設置を行い、学生に周知済みである。

5-5相談者の守秘義務の徹底	相談者の内容は、教員・業務委託契約講師への必要とする共有を除き、他者へ漏らさぬよう、注意を払っている。										
5-6相談内容によるカウンセラーと教職員との連携	カウンセラーの設置を行ったばかりのため、今後、担当教員は、カウンセラーと連携し、職員会議等で必要な共有を行っていく必要がある。また、カウンセラーから必要に応じて適切な医療機関への受診を勧める体制づくりを進めている。										
5-7奨学金制度の整備	<p>本校で案内している奨学金の種類は以下である。</p> <table border="1" data-bbox="461 439 1453 1727"> <tr> <td data-bbox="469 439 699 707">日本学生支援機構(JASSO)</td> <td data-bbox="707 439 1445 707"> <p>在学中の学校からの予約採用、本校入学後の在学採用で申し込み。※給付奨学金制度は在学中の学校からの推薦となる。 ※予約採用に関しては在学中の学校窓口へ問合せ。 ※本校より学生支援機構へ推薦後、採用されない場合もある。 <a href="https://www.jasso.go.jp/">https://www.jasso.go.jp/</a></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 719 699 954">日本政策金融公庫(国の教育ローン)</td> <td data-bbox="707 719 1445 954"> <p>全額政府出資の政府系金融機関のため、公的な融資制度として安心して利用できることや、低利で手続きが簡単であることから、全国的に多くの学生が利用している。入学前審査が可能で、早めに学費準備ができる。 <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html">https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html</a></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 965 699 1234">オリコ学費サポートプラン</td> <td data-bbox="707 965 1445 1234"> <p>学校提携の教育ローン。入学金・学費などの明細を元に、申請したい金額を指定することで、オリコから学校へ直接申請金額が振り込まれる。納付時期毎に申し込みができ、多彩なご返済プランを選択できる。 <a href="https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&amp;do=confirm">https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&amp;do=confirm</a></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1245 699 1447">新聞奨学生</td> <td data-bbox="707 1245 1445 1447"> <p>大手新聞社が運営する奨学金制度で、主として新聞配達や集金などの業務を行う代わりに、学費の貸与・月々の給与の支払いが受けられる制度。食事や住居の提供もあり、安定した学生生活が送れるよう配慮されている。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1458 699 1727">公益社団法人東京都私学財団東京都市英資金貸付事業</td> <td data-bbox="707 1458 1445 1727"> <p>都内に居住する在学学生で、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な学生に、無利息で奨学金を貸与できる制度。 ※申込み資格に全て当てはまる人が貸与の対象。 <a href="http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html">http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html</a></p> </td> </tr> </table> <p>奨学金の申込方法や継続申請など、学生本人では把握しきれず手続きまでに時間がかかることが多かった。今後の課題として、学校として早めの段階で締切日を設定だけでなく、学生保護者とも密に連携を取り、申込手続きがスムーズにできるよう対応していく。</p>	日本学生支援機構(JASSO)	<p>在学中の学校からの予約採用、本校入学後の在学採用で申し込み。※給付奨学金制度は在学中の学校からの推薦となる。 ※予約採用に関しては在学中の学校窓口へ問合せ。 ※本校より学生支援機構へ推薦後、採用されない場合もある。 <a href="https://www.jasso.go.jp/">https://www.jasso.go.jp/</a></p>	日本政策金融公庫(国の教育ローン)	<p>全額政府出資の政府系金融機関のため、公的な融資制度として安心して利用できることや、低利で手続きが簡単であることから、全国的に多くの学生が利用している。入学前審査が可能で、早めに学費準備ができる。 <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html">https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html</a></p>	オリコ学費サポートプラン	<p>学校提携の教育ローン。入学金・学費などの明細を元に、申請したい金額を指定することで、オリコから学校へ直接申請金額が振り込まれる。納付時期毎に申し込みができ、多彩なご返済プランを選択できる。 <a href="https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&amp;do=confirm">https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&amp;do=confirm</a></p>	新聞奨学生	<p>大手新聞社が運営する奨学金制度で、主として新聞配達や集金などの業務を行う代わりに、学費の貸与・月々の給与の支払いが受けられる制度。食事や住居の提供もあり、安定した学生生活が送れるよう配慮されている。</p>	公益社団法人東京都私学財団東京都市英資金貸付事業	<p>都内に居住する在学学生で、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な学生に、無利息で奨学金を貸与できる制度。 ※申込み資格に全て当てはまる人が貸与の対象。 <a href="http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html">http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html</a></p>
日本学生支援機構(JASSO)	<p>在学中の学校からの予約採用、本校入学後の在学採用で申し込み。※給付奨学金制度は在学中の学校からの推薦となる。 ※予約採用に関しては在学中の学校窓口へ問合せ。 ※本校より学生支援機構へ推薦後、採用されない場合もある。 <a href="https://www.jasso.go.jp/">https://www.jasso.go.jp/</a></p>										
日本政策金融公庫(国の教育ローン)	<p>全額政府出資の政府系金融機関のため、公的な融資制度として安心して利用できることや、低利で手続きが簡単であることから、全国的に多くの学生が利用している。入学前審査が可能で、早めに学費準備ができる。 <a href="https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html">https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html</a></p>										
オリコ学費サポートプラン	<p>学校提携の教育ローン。入学金・学費などの明細を元に、申請したい金額を指定することで、オリコから学校へ直接申請金額が振り込まれる。納付時期毎に申し込みができ、多彩なご返済プランを選択できる。 <a href="https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&amp;do=confirm">https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&amp;do=confirm</a></p>										
新聞奨学生	<p>大手新聞社が運営する奨学金制度で、主として新聞配達や集金などの業務を行う代わりに、学費の貸与・月々の給与の支払いが受けられる制度。食事や住居の提供もあり、安定した学生生活が送れるよう配慮されている。</p>										
公益社団法人東京都私学財団東京都市英資金貸付事業	<p>都内に居住する在学学生で、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な学生に、無利息で奨学金を貸与できる制度。 ※申込み資格に全て当てはまる人が貸与の対象。 <a href="http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html">http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html</a></p>										

5-8奨学金貸与者の推移	日本学生支援機構(JASSO)貸与奨学金受給者率	15.7% (昨年24%)
	日本学生支援機構(JASSO)給付奨学金受給者率	11.5% (昨年2%)
	<p>本校では奨学金利用者の中で、日本学生支援機構による貸与者がほとんどの割合を占めている。日本学生支援機構奨学金については、本校入学前の新入生ガイダンス時に全員へ告知、在校生にも4月の段階で希望者を募るため、学生へ漏れなく周知することができた。</p> <p>また、修学支援制度の対象校となったことで給付型奨学金を申請する学生が増えた。これにより今後は、家計が厳しい学生でも入学しやすくなり、学生の経済的負担を減らすことができる。</p>	
5-9学生寮の有無、管理・サービス状況	学校保有の学生寮はないが、金額面や体験宿泊等の優遇を受けられる学生会館があり、資料請求時の案内、希望者への無料体験宿泊等の案内も随時行った。	
5-10定期健康診断の実施及び受診項目	<p>学校における学生及び職員の健康の保持促進を図るため、保健管理に関して、必要な項目を安全な環境において実施した。</p> <p>受診項目は、身長・体重計測／視力／血圧／診察／心電図。</p> <p>健診当日も出欠を確実にとり、受診できなかった学生に対しては、後日近くの診療所で各自受診してくるよう伝えた。</p>	
5-11卒業生のフォローアップ状況	卒業生の活躍は学内外で告知を行っており、教室利用や受講等の制度は整っているが、就職支援等は行っていないため、今後、同窓会組織づくり等行い、卒業生へのフォローアップを検討したい。	
5-12卒業生や就職先等関係者の意見聴取等の活用状況	例年では学内で企業説明会及びワークショップを開催した際、就職した卒業生の近況や本学生の評価、業界の現在のニーズについて意見聴取を行うなど関係企業との連携を大事にし、学生指導等に活かしているが、今年度においては新型コロナウイルス感染拡大状況もあり、卒業生について企業との連携があまりできていない状況である。	

<b>VI. 教育環境</b>	
6-1施設の使用状況	平日9:00～19:00、土日9:00～17:00で授業以外にも、学生は窓口で教室利用申請を行い、教室・設備を使用することができることとした。
6-2普通教室、実習室の面積 (全体、学年1人あたり)	演劇学科の普通教室として、第3教室(101.58㎡)第11教室(80.61㎡)、芸術学科の普通教室として、第5教室(49.15㎡)第6教室(49.15㎡)を設置している。
6-3保健室・休憩室の整備	臨床心理士の先生にお越しいただき、普段なかなか相談できないことを相談できる環境を整える予定。

6-4 自学・自習室の有無	<p>学生が自由にパソコン作業や、自学、DVD観賞等を行えるスペースがある。</p>
6-5 各室の安全性、セキュリティ対策の状況	<p>玄関や各部屋に警備カメラを設置しており、不審者の出入りがないか、常に職員室で確認できるようにしている。</p> <p>また学校に設置されたカードリーダーにICカードをかざすことによって、学生の登下校情報をあらかじめ登録された保護者のメールアドレスに配信し、学生の登下校状況を保護者が分かるようにしている。</p> <p>これは、災害時の情報・状況配信にも役立っている。</p> <p>今年度は特に衛生面での対応を強化し、ドアや窓の常時開放による空気の循環と、使用後には必ず床や机等の使用した箇所のアルコール消毒を徹底。玄関・各教室にもアルコール手指消毒液を設置、感染症対策を心がけている。</p> <p>また、玄関には瞬時に体温が測れる、液晶ディスプレイ付き体温計を設置した。</p>
6-6 卒業生の利用希望への対応	<p>申請し、許可された者が利用することができる。</p> <p>今年度に関しては、感染拡大の観点から、教室貸し出しを一時中止している。</p>
6-7 教育用機器備品の整備、充実度	<p>各教室に設置されている機器については、毎年度、問題がないか十分に確認し、授業や行事活動に支障のないよう整備を行う。</p> <p>また、業界のニーズにあったパフォーマンスをするにあたって必要な機材を定期的に見直し、常に最新のものに触れる環境を用意している。</p> <p>経年劣化で不備が多少出始めていたレコーディングスタジオ常設の音響編集PCとインターフェイスを一新、作業効率が上がった。</p> <p>その他、ソーシャルディスタンスを保つために、アクリル板を設置。様々な場所でダンス等の授業が行えるよう、移動式の鏡を設置した。バレエバーを追加購入し一定の距離を保てるようにもした。</p> <p>近年公演等で映像を使用する回数も増えプロジェクターの使用率もあがっていることから、PVCホリゾン트를導入することにより鮮やかに映し出せることになり、クオリティがあがった。</p> <p>また地下ホール空調を総入れ替えし、冷暖房効率があがった。</p>
6-8 視聴覚、情報機器の整備、充実度	<p>現在はDTMの授業や個人の音源編集で使用しているiMacに次年度は動画や画像編集も含めたAdobeのCreative Cloudを導入する事を計画しており、これにより個人個人の編集技術が増進する。</p> <p>また今年度においては、配信授業や配信のイベントなどのオンライン配信が多く、カメラ・スイッチャー・三脚・大型テレビその他ケーブル類などの収録機材を買い揃えた。</p> <p>次年度はWi-Fiの回線速度を見直すとともに、学生にもWi-Fiを開放できるよう現在準備をしている。</p>
6-9 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成	<p>例年、学校行事ごとに、セクションを分け、学年ごとに学生リーダーを設けており、その学生リーダーを中心に学校行事の運営を行い、学生の主体性を大事にすることで、連帯意識の育成に注力している。</p> <p>今年度においては前半の行事が全て学年、コース別の分散で行っていたため、2学年での交流や他のコースとの交流ができず、学園祭や卒業公演で連携がうまくいかないことが多々見受けられた。</p>
6-10 学校行事による学生、教職員間の連帯意識の育成	<p>各担当教員は、各学生リーダーと連携を取り、情報共有を徹底し、学校行事運営のサポートを行ったが、試行錯誤する面が多々あった。</p>
6-11 担任制による学生への対応の徹底と認識	<p>ガイダンス時に、学生全員に向けて担当教員の紹介を行った。</p> <p>担当教員は、授業の出欠状況の把握・学納金支払い状況の把握・学校行事の運営・進路相談等を随時行い、必要に応じて個別での面談・指導も行うことで、学生への個別の対応を強化している。</p>

6-12正課授業内に発生した事故への適切かつ迅速な対応	全学生が、災害傷害保険、インターンシップ活動賠償責任保険に加入しており、正課授業内に発生した事故は、教務事務担当者がすみやかに保険の手続きを行っている。2020年度保険適用者はいなかった。玄関にAEDを設置、緊急時に素早い処置がおこなえる。
6-13防災の対応マニュアルの作成と適切な対応	防災マニュアルを作成しており、災害時にはそれぞれ担当となっている教職員が配置につき、対応する準備を整えている。
6-14防災訓練等による学生への防災対策の周知	年間スケジュールで防災訓練日を周知させ、全員が必ず参加するよう積極的に働きかけた。
6-15防災訓練の実施状況及び方法	今年度は、2020年8月11日に防災訓練を行った。地域管轄の消防署から、消防隊員に学校へ来てもらい、実際の指導の元、避難訓練、消火設備機器の指導をうけ実施した。 災害時を想定とした動きを実際に行い、教職員の担当箇所に配置させ、学生を避難場所に誘導した。 また、消化器の使用方法・屋内消火栓の使用方法を消防隊員の方に説明してもらい、学生たちが実際に消化器を使用しながら、実践的指導を受けた。

<b>VII. 生徒募集</b>	
7-1広報活動開始の時期、方法	<p>○広報活動の時期と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年3月より、前年度のパフレット、ホームページをブラッシュアップし、当校のカリキュラムを反映させた独自の募集ツールを作成した。</li> <li>・3ヶ月ごとに体験授業のフライヤーを作成。デザインも一新し、資料請求者に配布した。また、学校訪問時のツールとしても使用した。</li> <li>・2019年度より導入したWEBマーケティングのシステムを活用し、職員全員が資料請求や体験授業の参加者などを正確に把握できるようになり、資料発送等の作業も効率よく行えるようになった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、エントランスでの検温、実施部屋の換気、アルコール消毒、マスク・フェイスシールドなどを着用し体験授業を行った。 また、遠方等で参加できない方のために、オンライン体験授業・学校説明会・個別相談会・入試を行った。</li> <li>・最新のドローン機材を使用し、本校の学校紹介ビデオを作成して、HPやエントランスのサイネージなどで使用した。また、対面式の会場ガイダンスや、学校訪問時の説明等でも活用した。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=UDVp038T0cY&amp;feature=emb_logo">https://www.youtube.com/watch?v=UDVp038T0cY&amp;feature=emb_logo</a></li> <li>・日本芸術専門学校のオリジナルのキャラクター「日芸ちゃん」を作成し、最新のチャットシステム「チャボット」を試験的に導入し、HPからの質問等に、自動応答で対応できるようにした。</li> <li>・WEB進学マーケティングシステムにより獲得したエンターテインメント</li> </ul>

	<p>志望の高校3年生に向けたダイレクトメールを約6000通発送した。</p> <p>・出願、来校、学校案内、資料請求等の取得方法としては、下記のものがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料請求 <a href="https://r-shingaku.com/ce/form/309/input">https://r-shingaku.com/ce/form/309/input</a></li> <li>2. オープンキャンパス <a href="https://www.jnc.nichigai.ac.jp/opencampus/">https://www.jnc.nichigai.ac.jp/opencampus/</a></li> <li>3. インターネット出願 <a href="https://www.jnc.nichigai.ac.jp/entry">https://www.jnc.nichigai.ac.jp/entry</a></li> <li>4. オンライン学校説明会・個別相談会 <a href="https://www.jnc.nichigai.ac.jp/news/2656.html">https://www.jnc.nichigai.ac.jp/news/2656.html</a></li> <li>5. SNS(Twitter/Instagram/Facebook/LINE@)</li> <li>6. ガイダンス及び学校訪問</li> <li>7. LINEでのSNS相談</li> <li>8. 各イベント等への挟み込み</li> <li>9. 体験授業・各校内イベント等のDMの発送</li> <li>10. リスティング・リマーケティング等WEB施策</li> <li>11. バンパー広告(YouTube)の配信</li> </ol> <p>○入試の時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試 6/1から開始</li> <li>・推薦入試 10/1から開始</li> <li>・一般入試 11/1から開始</li> </ul> <p>2020年度より、合格通知の発送は9/1以降に行った。</p>
7-2誇大広告の自己点検(学校案内等)	<p>学校案内・ホームページなどのデザインや構成などは、年度ごとにブラッシュアップを行い、正確な情報の発信に努めた。</p> <p>募集戦略会議、WEB広告月次レポート会議、WEB施策会議などを月ごとに行い、問題点を改善する努力をした。また、このような会議は今後も継続して行う予定。</p>

<b>VIII. 財務</b>	
8-1学校経営における適正度の点検	監事による会計監査に加え、公認会計士による監査(中間監査と年度末監査)も適正に行われている。

<b>IX. 法令等の遵守</b>	
9-1法令遵守の状況について	全教職員対象のコンプライアンスセミナーを開催するなど、継続的に法令遵守に関する啓発活動に努める。また今年度から新しい顧問弁護士事務所と契約を行い、法令遵守についてのアドバイスを適宜いただく予定。

## X. 社会貢献・地域貢献

10-1教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制

ボランティア活動等の情報を随時、掲示板で知らせ、学生へ積極的に参加を呼びかけている。多くのボランティアに参加した学生には、卒業式でその功績を表彰している。

また、例年、担当教員が引率のもと、フラダンスチームで町おこしイベントへの参加や、被災地いわきでフラダンスを披露するという慰問活動を行っているが、今年度においては新型コロナウイルス感染拡大のため、イベントが全て中止または延期となり活動できていない。

今後、町内会等にも積極的に参加し、地域との繋がりを大切に、本校の教育活動にもご理解、ご協力いただく体制づくりを行っていく。

## XI. 国際交流

11-1 留学生の受入れ・派遣のための体制整備

受験資格として、外国において12年以上の学校教育を修了した者で(財)日本語教育振興会の認定施設校(日本語学校)で6カ月以上の教育を受けた者、または、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2合格者の入学を受け入れている。

近年の留学生の受け入れ実績	
2018年	2名
2019年	0名
2020年	2名

現状の課題点として、学納金が支払えず、不登校になる留学生が増えてきている。

そのため、次年度より留学生の入試においては、下記を願書とともに提出必須とし、募集要項を改定することが決まっている。

- ・留学ビザのコピー
- ・パスポートのコピー
- ・保証書
- ・日本語学習歴(またその証明書類)
- ・経費支弁書
- ・経費支弁者の残高証明書

留学生の入学があった場合、以下の報告を入国管理局へ行い、留学生管理体制の徹底を行っている。

- ・4月－受入れ状況報告
- ・5月、11月－現在の在籍状況報告
- ・3月－受入れ終了報告

また、留学生担当職員がおり、常に留学生のビザの期限を把握し、必要に応じてビザの更新手続き、学生サポートを行っている。

○留学生の就職サポート

- ・求人票を掲示し、学生がいつでも確認できるよう就職情報を案内している。
- ・年度内で企業説明会を設け、業界について学べる機会を設定している。

○留学生対象の奨学金について

奨学金希望者には、入学前から利用できる奨学金制度を案内し、手続きのサポートを行っている。

※日本留学奨学金パンフレット

[https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study\\_j/scholarships/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/scholarships\\_2019\\_j1.pdf](https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/scholarships/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/scholarships_2019_j1.pdf)

上記受験資格を設けることにより、入学後も言語面で留学生が悩むことなく、日本人学生の中に入りコミュニケーションをとることができた。また、留学生も利用できる奨学金制度の案内をしたことで、留学生の本校進学の手助けとすることができた。

11-2国際交流の枠組

国際交流の枠組はないが、留学生受入れに関しては、問い合わせがあった際に都度対応を行っている。また、在学生については、例年10月に希望者でロンドンやニューヨークで演技・ミュージカルの研修を行っているが、今年度においては新型コロナウイルス感染拡大状況により、実施できていない。